

妙参寺沼

(みょうさんじぬま)



全景



水辺での釣りを楽しむ

ため池の概要

ため池の所在地

群馬県太田市

ため池の特徴

妙参寺沼は南北約150m東西約60mの長方形に近いため池で、江戸期の開削とされています。

周堤の桜は地元住民によって植栽されたもので、桜まつりや釣り大会が行われるなど、周辺の人々の集うコミュニケーションの場となっています。

中世期、この地には、主に湧水を利用したかんがい用のため池があり、その利水によって「新田の荘」の荘園が開かれました。江戸期に今の姿となり、現在は農地30haに水を供給する親水型の公園となっています。

沼は生物多様性に富んでおり、群馬県の調査では、98種の植物、28種の鳥類、4種の魚類、17種の底生動物類、3種の両生類、81種の陸上昆虫類が確認されています。時折「カワセミ」も姿を見せ、冬場には「カモ」、「オシドリ」が群をつくり羽を休めています。

関連情報